

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103870
法人名	株式会社 スローライフ
事業所名	ぐるうぱほうむ3丁目
所在地	松山市水泥町631番地
自己評価作成日	平成28年 8月 3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年8月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気大切に、利用者さん同士、職員同士が声掛け、見守りを行うことで一人ひとりが役割を持って楽しく生活できるような支援をしている。健康管理にも気を付けており、主治医との連携をとることで健康的な生活ができるように支援している。

利用者さんも職員と一緒に地域の行事などに積極的に参加したりなど、地域の方々とのふれあいを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 職員の提案で、初めて利用者全員で動物園に出かけた。その取り組みが職員の外出支援の自信につながり、その後、いちご狩りやサーカスに出かける等、全体で外出する機会が増えた。
- 入浴支援時には、浴槽に入る前に、「足元に水を三回かける」等の個々の習慣を大切にしている。全員で外出した日には、帰宅後に気持ちよく過ごせるように、全員が入浴できるよう支援している。
- 以前は、利用者の状況についてのメッセージを事務所で作成して、毎月の送付書類に同封していたが、現在は、メッセージ内容をミーティング時に話し合い、家族により具体的に報告できるように取り組んでいる。又、これまで家族とのやりとりを管理者が行っていたが、職員も行う体制をつくり、家族と職員の会話もスムーズにできるようになっている。事業所入口にイベント時等の写真を掲示しており、その後は家族にプレゼントしている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい の 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい と 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい が 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい が 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい が 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい が 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容を P R!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

ぐるうぷほうむ3丁目

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏 名

喜井 伊久里

評価完了日

平成 28 年 8 月 3 日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 理念に沿ったケアができるようミーティング等で職員の意識 を高め、利用者個々について話し合っている。また、申し送 り等で、利用者の状態や様子などを職員間で伝え、常に理 念に沿った支援に努めている。	
			(外部評価) 理念を事業所入口に掲示し、職員や訪れる人達と共有して いる。	
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域の行事に積極的に参加をし、地域の方々と一緒に取 り組んでいる。また日常的には、散歩や外出時にご近所 の方や子供たちと挨拶を交わし、交流できるよう努めている。	
			(外部評価) 秋祭り時には、地域の方が居間で獅子舞を披露してくれた。 又、地域のサロンに参加して、地域の方達とカラオケやゲ ムを楽しんだり、食事をしたりすることもある。今後はさら に、「利用者と地域の方が、ふれ合う機会を増やしたい」と考 えており、ゆくゆくは、機織り教室、編み物教室、ママさんス クール等を開いたり、スペースを貸したりするような取り組みを 検討している。	
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) いつでも認知症の相談や見学を受け入れている。 現在開催を休止しているが、月に一度、「青空市」(フリー マーケット)を開催し、気軽に立ち寄って頂けるよう地域 の方との触れ合いの場を設け、当施設を知って頂けるよう に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○ 運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			併設の小規模多機能型施設と合同で開催をし、ご家族・地域の方・地域包括・市職員へ案内をかけ、利用者・職員も参加をして現状の報告と意見交換を行う。また、話し合った内容において、今後に活かせるように努めている。	
5	4	○ 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(外部評価)	
			会議には、利用者・家族・民生委員・地区区長等の参加があり、写真を見てもらいながら、利用者や活動状況の報告を行っている。地域からの参加者は、利用者とも顔なじみになっており、地域行事に関する情報をその都度教えてくれている。	
6	5	○ 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			常に利用者の様子をみて声かけをし、身体拘束にならないケアを心かけている。また、異常行動があった場合にも、利用者を理解するように努め、寄り添うようにしている。	
			(外部評価)	
			日中、玄関は開放している。身体拘束について法人内研修を行っており、日々のケアの中で職員から、「これは身体拘束に当たるかどうか」という質問や確認があり、管理者は、「職員は以前より、身体拘束をしないケアについて意識を持つようになっている」と感じている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 理念を通し、ご利用者を尊重した介護に努めている。また、入浴などを通し、身体を観察し、ケガや打ち身がないかチェックをしている。社内研修でも虐待の防止について取り上げ、学ぶ機会を持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度が必要な場合には、地域の包括センターなどと相談をするように考えている。また、多くの職員にも認知していただく為に、社内研修のテーマの一つとして取り上げているが、より制度の理解に努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、ご本人・ご家族へ十分説明を行い、理解・納得頂いて締結する。また、不明な事に関して問い合わせがあれば、随時対応するようにしている。 改定時には、書面にて案内・説明をし、同意を得るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議にご家族も参加していただき、要望や意見を聞くようにしている。また、“ご意見箱”を設置したり、面会時には近況を伝え、ご家族の要望等を聞き、実践できるように努めている。 (外部評価) 以前は利用者の状況についてのメッセージを事務所で作成して、毎月の送付書類に同封していたが、現在は、メッセージ内容をミーティング時に話し合い、家族により具体的に報告できるように取り組んでいる。又、これまで家族とのやりとりを管理者が行っていたが、職員も行う体制をつくり、家族と職員の会話もスムーズにできるようになっている。事業所入口にイベント時等の写真を掲示しており、その後は家族にプレゼントしている。	さらに、家族が事業所での活動に参加できるような機会や場面を増やして、家族が意見や要望を出しやすいような関係を作っていってほしい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングの際、意見などを出し合い、今後の運営に反映させられるようにする。また、職員面談を設け、職員の意見などを聞く場を持つように努めている。	
			(外部評価)	
			新たな取り組みとして、4月から月1回、法人代表者と職員で気軽に話し合えるように座談会の場を設けている。管理者が「入院準備」「転倒時の対応」等のマニュアルを作成しており、マニュアルを共有できるように研修したり、先輩が後輩に指導したりしている。	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			年に一度、職員面談を設け、職員の要望や勤務状況を把握するようにしている。職場環境や職員の勤務条件等全体的に見直しをし、整備に努めている。	
13		○ 職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			月に一度、職員向けに内部研修を行い、出来るだけ皆が参加するよう指導している。	
14		○ 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			小野地区の社会福祉協議会などの集会や行事に出来るだけ参加をし、相互の情報交換するとともに交流を深める。また、この機を大事にネットワークづくりに努めている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用開始前の面談で、ご本人・ご家族の要望などをよく聞くことから関係づくりを始め、安心の確保に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前の面談時から、コミュニケーションがとれるように配慮している。また、できるだけ施設見学に来ていただき、施設の様子や雰囲気を見てもらうことにより、不安が少なくなるよう努めている。	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前の面談で、ご本人やご家族の意向を十分に聞くようにし、必要な支援と一緒に考えるようにしている。また、他のサービスを含め対応できるよう努めている。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で、家事などの出来ることや手伝いたいことを職員と一緒に行動などして役割を持ち、共同生活を共に暮らす者同士で築く努力をしている。	
19		○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日常会話の中で、ご家族の話題を取り入れるように心掛けている。また、ご家族の面会時には、近況報告をしてご意見を聞くようにしている。 季節行事などにはご家族にも声かけをし、一緒に参加できる場を作るようにしている。	
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 日常の散歩や畑作業で、ご近所の方と顔なじみになり声をかけていただくなど、とてもよい関係が築かれてきていると思う。また、受診時を利用し、受診後に馴染みのお店やご本人が過ごされていた地域へ出向き、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援を行っている。 (外部評価) 併設小規模多機能事業所の利用者と交流する機会を作り、利用者や顔なじみになり、一緒にお茶を飲んだり、おしゃべりを楽しんだりして過ごしている。定期的に、地域サロンに参加しており、関係者が利用者の名前等を覚えてくれて声をかけてくれている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士のコミュニケーションがとれるよう、リビングの配置やお部屋の訪問が出来るような雰囲気や環境作りを考えている。そして、誕生会、ゲーム大会などの行事の際には一つの机に皆が集まり、皆の顔が見えてコミュニケーションがしやすい場面を作れるように心がけている。	
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時に何かあれば対応させて頂く旨ご家族に伝えており、相談があれば対応、協力できるよう努めている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常会話からご本人の気持ちや要望など伺い、意向の把握に努めている。また、ケアプラン作成時に今後の支援につながるように、ご本人の希望やしてほしいことを聞くようにしている。 (外部評価) フェイスシートは、介護保険の更新毎に書き換えている。意思表示がうまくできない利用者については、食事する様子や声のトーンや大きさ、表情等を見て「いつもとの違い」を意識した支援を心がけている。	
24		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族に確認させていただいたり、フェイスシートを活用するだけでなく、日常生活からご本人のこれまでの暮らしについて聞きとりをしながら把握している。ご本人のこれまでの生活を大切に、少しでも近い生活ができるように努めている。	
25		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりに対して気を配り生活支援をしていく中で、日常の様子や心身の状態の変化など申し送りなどを通して職員間で情報交換を行い、現状把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にミーティングを行っており、その中でモニタリングやその方のケアについて職員で話し合っている。 また、日々の変化など気づいた点について情報交換を行い、ケアプランの作成・見直しに努めている。	
			(外部評価) 新たに、介護計画書を日々の介護記録に差し込んで職員が計画に沿った支援や記録ができるように仕組みを作っている。月1回のミーティング時に話し合い、モニタリングを行っている。介護記録の内容について、確認の必要度の高い内容は、目立つように青色で記入している。	
27		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送り時に日々の生活の様子を伝え、問題に対し意見を出し合い、工夫し、見直しを行っている。また、日々の生活の中での気づきや変化に関しては、記録時にペンの色を変えるなど職員間で情報の共有しやすいよう努めている。	
			(自己評価) ご本人やご家族の状況や希望に添えるよう聞き取りを行ったり、ケアプランを参考に話し合いながら、柔軟な対応を行っている。	
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご本人やご家族の状況や希望に添えるよう聞き取りを行ったり、ケアプランを参考に話し合いながら、柔軟な対応を行っている。	
			(自己評価) 運営推進会議や交流会を通し、地域の方や地区の役員さん、地域包括の方などにアドバイスを貰いながら、安全で安心した生活が送れるよう支援する事に努めている。	
29		○ 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議や交流会を通し、地域の方や地区の役員さん、地域包括の方などにアドバイスを貰いながら、安全で安心した生活が送れるよう支援する事に努めている。	
			(自己評価) 運営推進会議や交流会を通し、地域の方や地区の役員さん、地域包括の方などにアドバイスを貰いながら、安全で安心した生活が送れるよう支援する事に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			受診は、ご本人やご家族の希望を大切に、同行できるご家族やスタッフが付き添い、適切な医療が受けられるように支援している。また、受診した際には、通院専用の記録を作成し職員間で共有できるように努めている。	
			(外部評価)	
			かかりつけ医には、利用者の気になる状態を相談してアドバイスをもらったり、服薬状況を説明して薬の形態の変更を相談したりしている。	
31		○ 看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			訪問看護師に体調の変化や心配事を相談しながら、適切な受診や看護が受けられるように支援している。	
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			入院時は面会をこまめに行い安心してもらえるようにし、今後の対応を病院と情報交換をしながら話し合い、出来るだけ早期に退院できるように努めている。	
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			ご本人やご家族と連絡を取り、ご本人やご家族の希望に添えるように主治医と連携して環境を整える。その際職員は今後起こりうる状態などをチームとなって方針を共有し、連携できるように努めている。	
			(外部評価)	
			入居時に、重度化した場合について家族等と話し合い意向を聞いている。看取りの段階になると、事業所の提携している24時間対応の医師へ引き継ぐようにしている。看取り支援時は、看護師資格を有する管理者が、職員に利用者の状態や予測される状況等をその都度伝え、対応方法を話し合いながら支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に対応が出来るように連絡手順を壁に貼り付け、対応マニュアルも現場に置いている。また、社内勉強会にも取り入れ実践に繋がるようにしている。	
35	13	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練や研修会を行い、対策を勉強している。 運営推進会議に地域の方にも参加していただき、避難訓練の報告やご協力を頂けるよう連携に努めている。 また、地域の防災訓練にも参加するようにしている。 (外部評価) 東北の震災後、全国のグループホームの災害ネットワークに入っており、災害時には、法人代表者が出向き支援を行っている。地域の総合防災訓練には、職員が参加している。管理者は、災害時には「グループホームが蜘蛛の巣のようにその中心になって、地域と助けあう体制を作っていきたい」と話していた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○ 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 災害時には、グループホームが蜘蛛の巣のようにその中心になって、地域と助けあう体制を作っていきたいと考えている。東北の震災後、全国のグループホームの災害ネットワークに入っており、全国 (外部評価) テーブルを拭く、洗濯物をたたむ、洗濯物を個々のカゴに分ける等、利用者の力を活かした役割、出番作りを支援している。車椅子は、利用者の状況に合わせてステップの部分に布を巻いたり、自走可能な方にはステップを外したりして、使用しやすいように工夫している。	
37		○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の様子や会話の中からお本人の希望を表せるように働きかけ、話しやすい環境になるよう努めている。ご本人が自己決定が出来るよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人のペースを大切に、無理強いをせずやりたいこと をくみ取り支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) ご本人に聞きながら好みに合った身だしなみを、職員と一 緒になって服を選んだりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の下ごしらえや食器の片付けなど一緒に行えるように 努めている。また、個人の好き嫌いに気を付け、できる限り完 食されるように創意工夫をしている。 (外部評価) 調査訪問時、職員は、食事介助の必要な方に、「ごはん ですよ」「お茶飲みましょうか」等と声かけしながら介助を行っ ていた。普段3つの食卓テーブルは離して配置し、利用者同士 の関係性等を踏まえ席順に配慮している。誕生日のお祝い の際には、普段と違う特別な日としてテーブルをくっつけ、皆 で囲み食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の体調の変化によって、白米やかゆにするなど工 夫をしている。また、体重増加などで食事量を考えなければ ならない場合は、ご本人の了解を取り栄養とバランスを考 えている。その際、食事量を記入し状態を把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 食後は口腔ケアを行い、清潔を保てるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄チェックを利用し、各個人の排泄のパターンに合わせて、声掛けや介助を行うことで、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価)	
			排泄パターンを把握し、日中はできるだけトイレで排泄できるよう、支援している。トイレの手すりには、赤のビニールテープを巻き付けて持ち手を分かりやすくしている。	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			食事やおやつの時だけでなく、定期的に水分補給していただくように努めている。また、排便の無い日は、日数を見ながら医師と連携を取って服薬のコントロールを行いバランスを調整している。	
45	17	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			入浴を通して浴槽でマッサージを行ったり、会話をするなど各利用者に合った入浴を支援している。また、ご本人の希望を聞き、その日の体調に応じて入浴していただいている。	
			(外部評価)	
			週に3回程度、入浴できるように支援している。浴槽に入る前に、「足元に水を三回かける」等の個々の習慣を大切にしている。全員で外出した日には、帰宅後に気持ちよく過ごせるように、全員が入浴できるよう支援している。	
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			一人ひとりの生活リズムや体調に応じて、安眠できるように声かけや誘導をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○ 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をファイルに綴じて職員全員がすぐに確認できるようにすることで、薬の作用や目的等について把握するように努めている。 受診時には症状の変化を伝えることで、主治医の指示を仰ぐようにしている。	
48		○ 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日の生活の中でお手伝いなどで、役割を見つけていただき催しの際には楽しみを感じていただく事で、日々の生活に変化を感じられるよう努めている。	
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節に応じてお花見やレストランでお食事をしたりなどと定期的に外出できるように努めている。 また、ご家族とも協力して一緒に出掛けられるように努めている。 (外部評価) 職員の提案で、初めて利用者全員で動物園に出かけた。その取り組みが職員の外出支援の自信につながり、その後、いちご狩りやサーカスに出かける等、全体で外出する機会が増えた。	今後はさらに、日常の中でちょっと出かけるような支援にも取り組みをすすめてほしい。
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は施設で管理している。ご本人が希望するものがあれば一緒に買い物に出掛け、購入の際には金額を確認をしたうえで買い物するよう支援している。	
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の希望に合わせて手紙や電話をいつでも利用できるように努めることで、ご家族の方やご友人などとやり取りができる環境である。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			季節行事の飾りつけや外出などの写真を貼ったり、また、花を生けたりすることで、季節感を味わって頂けるよう努めている。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			居間の3つのテーブルは、車椅子を自走する方、シルバーカーを使用する方の導線に気を配り、間隔に配慮している。自分で歯磨きする方が歯ブラシを取り出しやすいように、洗面横の低い位置に収納している。エアコンの前に布を付けて利用者に直接、風が当たらないよう配慮している	
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			自宅から使い慣れた馴染みのあるものを使って頂いたり、好みの物を置くことで、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			ベッドからの立ち上がりが難しい方で、木製ベッドを使用している方は、市販のベッド柵が付かないため、大工仕事の得意な職員が手すりを手作りしていた。犬の好きな方は、居室の壁面に犬の写真をたくさん飾っていた。	
			(自己評価)	
			日々の関わりを通して、一人ひとりの持っている力を把握し、出来ることはしていただくように支援している。 また、各利用者に合わせた部屋作りをとおして、本人にとって過ごしやすく、生活しやすい環境を作るようにしている。	